



積雪わずかな校庭。
児童が作った雪だるまが、校舎の方を向いて、微笑んでいました。

令和三年十二月二三日 朝

比較してみても、はじめて気付く

校長 高野 克彦

これを書いている今(R3/12/23)、校庭の積雪は10cmほどです。1年前の今日は、1m90cmでした。さて、今シーズンはどんな冬になるのでしょうか……………。

15年ほど前のことですが、外務省(JICA)の教師派遣研修で、カンボジアを10日間ほど視察する機会を得ました。ポル・ポト政権による大量虐殺から30年経った頃でした。クメール文化の多くが途絶え、技術の継承もままならない時期を経たカンボジアには、多くの国際的な支援が入っていました。プノンペンに到着してすぐに、JICAカンボジア支局長から講話を受けました。

話の主旨は「世界観の軸を変えてください」です。視察箇所はアンコールワットの修復現場を含めて19箇所以上に及び、その多くは日本による支援の現場(100%出資が多い)です。はじめは、「日本はこんなに貢献をしている」と、少し誇らしい気持ちがありましたが、そのうちだんだんと割り切れない気持ちも起きてきました。

私 「日本の国際貢献は分かったけれど、この国の人たちは、自分たちで何とかしようという気は無いのですか？」 と、JICAのスタッフ(以下「J」)に尋ねると、

J 「『何とかする』ためにはお金が必要です。そのお金は、どのように調達できると思いますか？」

私 「まずは、税金でしょう。例えば住民税とか、……………」

J 「この国には戸籍がありません。したがって、住民税を取ることはできません。自分が、いつどこで、生まれたかも知らない人が、多いのです。そもそも、戸籍が整備されている国は、世界を見渡しても、日本を含めてごく僅かです。」

私は、ハンマーで頭を殴られたような気持ちになりました。如何に、自分が『日本』という恵まれた日常を「スタンダード」として認識していたかに、気付かされたからです。

世界観の軸を変える……、それは【日常】と【そうでないもの】を比較した先にあると感じました。

我が校の児童たちも、日々学校に通えること、安心して水道の水が飲めること、給食で地元のコシヒカリを食べていること、登下校時に見守り隊の方が一緒に歩いてくださること、春が近付いた頃「しみわたり」ができること、……限りない日常を「あたりまえ」と感じているかもしれません。

ご家庭、地域、周りの人たちに支えられている『日常』に感謝するには、もう少し時間がかかるのかもしれない。

《1月の主な予定》

省略します

児童の活躍

省略します

あけましておめでとうございます

統合まで、3か月となりました。

日々、感謝の気持ちを噛み締めながら、過ごしていきます。

何よりも、気負うことなく、子どもたちの成長を第一に、頑張ってまいります。

今年もよろしくお願ひします